

曲に罪はないはずだが...チャイコフスキー大序曲「1812年」演奏中止相次ぐ

ロシア人作曲家チャイコフスキー(1840～93年)の大序曲「1812年」の演奏を取りやめる動きが国内で相次いでいる。ナポレオン率いるフランス軍による1812年のロシア遠征で、露軍が仏軍を撃退する様子を表現し、日本でも親しまれているが、露軍がウクライナへの侵攻を続ける現在の状況で、演奏するのはふさわしくないとの判断があるようだ。

「1812年」には、ロシアで親しまれる聖歌や民謡が引用され、フランス国歌「ラ・マルセイエーズ」の旋律も登場する。仏国歌の旋律が徐々に消え、帝政ロシアの国歌へと変わっていく流れで、露軍の勝利を表している。大砲に見立てて打楽器を打ち鳴らし、フィナーレでは勝利の鐘が響く。日本でも人気の曲で、屋外の演奏では本物の大砲が使われることもある。

明石フィルハーモニー管弦楽団(兵庫県明石市)は、21日の演奏会の最後にこの曲を予定していたが、急きょ外した。担当者は「ロシアが他国の侵攻に打ち勝ったという意味を持つ曲の演奏は、好ましくないと判断した」と説明する。

東京都立白鷗高・付属中(台東区)の吹奏楽部でも顧問と生徒らが話し合い、来月4日に開催予定の定期演奏会での演奏を取りやめた。生徒からは、現地の状況を心配する声上がり、「曲に罪はない」という意見もあったという。宮田明子校長は「これまで一生懸命練習してきた生徒たちが話し合って決めたこと。尊重したい」と語る。

中部フィルハーモニー交響楽団(愛知県小牧市)は26日の演奏会で演奏を取りやめ、代わりにフィンランドの作曲家シベリウスの交響詩「フィンランディア」を披露する。

「フィンランディア」はロシアの圧政に抵抗する人々への思いを込めて作られた曲で、今月1日にフィンランドの首都ヘルシンキの露大使館前であった抗議集会では、数百人の市民らがウクライナへの連帯を示そうと歌い上げた。中部フィルの担当者は「ウクライナを応援する意味で選んだ」と語る。ただ、「チャイコフスキーの音楽を否定することはない」として、バレエ音楽「くるみ割り人形」を演目に追加するという。

音楽評論家の石田一志さんは「本来、芸術は政治に左右されるべきではない。ただ、露軍の侵攻が世界に衝撃を与える中で大序曲を演奏するのはあまりにも生々しく、演目から外す動きも致し方ない」と話している。

＜第1次世界大戦と日本＞第8回 ロシア革命で帝国崩壊

調査研究本部主任研究員 浅海伸夫

ストルイピン首相

「血の日曜日」を発端とするロシアの第1次革命(1905年)のあと、皇帝ニコライ2世は、言論・集会の自由など政治的自由を認め、国会を開設しました。下院にあたる「ドゥーマ」と、勅選議員らからなる上院の「国家評議会」が作られました。

1906年3月、ドゥーマの議員選挙が実施され、立憲君主制を主張する「立憲民主党」が第1党になります。社会民主党の2大分派であるボルシェヴィキもメンシェヴィキも、選挙をボイコットしました。前者は少数精鋭の革命的前衛党をめざし、後者は西欧的、大衆的な労働者党を志向していました。

同年4月に ^{きんてい} 欽定憲法が制定されます。それによると、皇帝に最高専制権力が属し、皇帝は国会と協力して立法権を行使する、としており、いわば「立憲専制体制」というべきものに移行したのです。

ストルイピン

首相になったストルイピン(1862～1911年)は、名門貴族の出身で、ペテルブルク帝国大学で自然科学を学び、地方の県知事などを務めた人でした。

彼は、革命運動を厳しく弾圧しつつ、農村の共同体を解体して農民の土地私有を認めるなど、改革に積極的に取り組みました。しかし、土地の私有地化は思うようには進みませんでした。ストルイピンの提出する法案は、なかなか国会を通らず、皇帝の勅令に頼ることが多くなります。無理な手法がたたたり、反対勢力に囲まれたストルイピンは11年9月、皇帝の面前でユダヤ人青年によって暗殺されました。

再び、ロシアに革命の機運が生まれます。ブルジョワジー(資本家階級)の力が強まり、貴族、官僚に代わって「ロシアの第3身分」が国を導かなければならない、という主張が現れました。ブルジョワジーは、西欧文化の最先端と結びつき、自らの力にふさわしい政治的な地位を求めます。(和田春樹著『ロシア』)

怪僧・ラスプーチン

この頃、ロシアの政治に大きな影響を及ぼした人物に怪僧・ラスプーチン(1869～1916 年)がいます。ラスプーチンは西シベリア出身の「宗教家」で、教会の 伝手^{つて} によって 05 年、宮廷に姿を現しました。前年、皇后アレクサンドラが出産した待望の皇太子は、血友病にかかっており、ラスプーチンは「不思議な能力」によって、皇太子の治療にあたり、皇后の厚い信頼を勝ち得ます。

残酷な世界観、張り巡らされた伏線...映画「呪術廻戦」大ヒットの背景に迫る

愛とは、呪いとは――。人気マンガが原作のテレビアニメ「呪術廻戦」の前日譚となる映画「劇場版 呪術廻戦 0」が、昨年末から公開されています。主人公の少年が、怨霊と化した幼なじみの呪いを解くため、呪術師となって戦う物語です。出演者らのインタビューを通し、その魅力に迫ります。

呪いは人間の負の感情から生まれる。呪いは呪いの力でしか 祓 えない。その「呪力」の使い方を学ぶ場が、物語の舞台である呪術高等専門学校だ。

あくたみげげ

原作は単行本の累計発行部数が6000万部以上の 芥 見 下 々 さんの人気マンガ。死と隣り合わせの残酷な世界観、呪いにまつわる複雑な設定の数々、張り巡らした伏線、疾走感あふれるバトル……。その中で描かれるキャラクターの人間ドラマに引き込まれる。テレビアニメ化で人氣が加速。今回の劇場版は、現在週刊少年ジャンプで連載中の本編の1年前の物語で、いわば原点。「呪術廻戦 0 東京都立呪術高等専門学校」の内容となる。昨年12月24日に公開後、大ヒットを続けている。

パクソソフ

テレビアニメに続き劇場版を手がけた 朴 性 厚 監督は「呪術廻戦は生き生きしているキャラ

いたどりゆうじ

クターが魅力」と話す。テレビ版の主人公は 虎 杖 悠 仁 だが、劇場版の主人公は高校生の

おりもと

乙骨憂太。怨霊と化した幼なじみ・ 祈 本 里香にとりつかれ、周囲を傷つけてきたことに悩み、自らの死すら望む。「他人に害を与えたくない、自分で自分を苦しめている。乙骨には、うまく思いを表に出せない現代の若い人たちに、通じる部分があるのでは」

ぜんいん

いぬまきとげ

映画は、そんな乙骨が呪術高専に転入して同級生の 禪 院 真希、 狗 卷 棘 、パンダと出会い、呪術師として、人間として、強さを身につけていくさまを描く。

テレビアニメで評判だったバトルの描写は、劇場版でさらに進化した。手描きアニメだからこそできる動きや表現にこだわったという。「乙骨と里香のコンビネーション感を出した」と朴監督。人気キャラの七海建人らの活躍シーンなど、原作マンガにない要素も盛り込んだ。また、最悪

じゅそし げとうすぐる

の 呪 詛 師 ・ 夏 油 傑 が使った大技の表現には時間をかけた。「芥見先生にどんな色味か、どんな質感かを伺って特殊効果や音響を入れた。苦労したかいがあった」と自信をにじませる。おどろおどろしさと迫力は圧巻だ。

「劇場版はシンプルな乙骨の成長物語で、『助け合い』をテーマに描きたかった。僕自身、アニメを一人では作れないと、いつも感じている。一人で頑張るというより、周りと助け合って幸せになりましょう、という思いが伝われば」

主人公・乙骨憂太役の緒方恵美さんは、原作を読んで、「骨子がしっかりしている群像劇で、甘々なところがないダークな世界観がすごく面白かった」と語る。だが、彼のことが全部、原作に描かれているわけではない。「すべてのシーンで自然な感じで彼になるのは、難しいと思いました」と振り返る。「ただのポンコツで何の特殊能力もない。成長した暁に、どうすれば自然に違和感なく、重要なセリフを口に出せるかということ进行をすごく考えた」。収録の前に、朴監督や音響監督と話し合い、キャラクター像をすり合わせたという。